

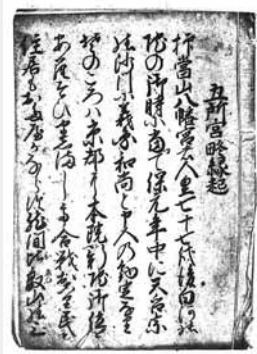
## よみがえる！中井の郷土資料

その11

### 伝承と古文書に見る

### 五所宮の縁起 ～報告会～

先日、五所八幡宮祭礼記録作成調査活動の報告会が無事に終了しました。多くの皆さまにご参加いただき、ありがとうございました。当日は三名の委員から多角的な報告があり、地域に伝わる歴史の奥行きを感じさせる内容となりました。今号では、そのうち三上委員が町内に残る江戸期の資料を読み解いた成果を、かいつまんで紹介します。



五所宮略縁起（雑色家所蔵）

とくに印象的だったのは、義圓上人が雑色村を訪れた際の出来事に関する記述です。現在の伝承では、義圓の杖が根付いて槐えんじになったと語られていますが、この話は「五所宮略縁起」「五所宮八幡宮略縁起」のいずれにも見られません。むしろ古い縁起には、義圓が休んだ場所にはすでに大きな槐があったと記されています。槐は中国原産の落葉樹で、8世紀

頃には日本でも植えられるようになったとされるため、当時すでに老木があっても不思議ではありません。

また『新編相模国風土記稿』の雑色村子ノ神社の項には、「神木・老槐(囲二丈五尺余)」と記されており、天保年間には立派な槐が御神木として存在していたことが確認できます。ただし、それが義圓ゆかりの槐そのものかどうかまでは分かりません。一本の木をめぐる、伝承と記録の語り方が時代とともに変わってきたことがうかがえました。

義圓の夢に現れた童子についても、興味深い違いがあります。現在の由緒では誉田別尊(応神天皇)とされていますが、古文書では童子は「正太」と名乗り、一晩で木像三体を彫り上げたことと記されています。そして忽然と姿を消したことから、童子が神の化身として理解され、現在の伝承へとつながっていったのかもしれない。

伝承と古文書の記述は必ずしも一致しません。しかし、その違いをたどることで、地域の歴史がどのように受け継がれ、形づくられてきたのかが見えてきます。五所八幡宮は、村人の信仰と暮らしの中で育まれてきた歴史を今に伝える存在であることを、あらためて感じさせられる報告会でもありました。

文・槐真史

(中井町教育委員会生涯学習参与)

監修・三上芳範

(昭和女子大学大学院生活機構学専攻)

## 中井町情報公開制度の利用状況

町が保有する公文書を、皆さんの請求に応じて公開する情報公開制度の令和7年度における利用状況をお知らせします。

●公開請求件数 16件

●公開状況

公開したもの	7件
公文書の一部に個人名などが記載されていたため、その部分を除いて公開したもの	7件
非公開としたもの	0件
町が保有していないため不存在としたもの	2件

また、町が保有する自己を本人とする個人情報の開示などを求める保有個人情報開示請求等制度の令和7年度における利用状況については、開示などの請求がありませんでした。今後、より開かれた町政を推進するため、本制度をご利用ください。

### 制度の利用方法

公開請求の手続きは、役場2階の総務課情報公開窓口において、備え付けの公文書公開請求書に必要とする公文書名などを記入し提出していただきます。

請求後14日以内に公開可能かどうかご連絡します。公開決定となった場合は、情報公開窓口において公文書の閲覧または写しを受け取ることができます。

問合せ

総務課 ☎(81)11111